

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日（火）

No	懇談事項	説 明	担当部課名
1	<p>都南つどいの森の活性化策について</p> <p>都南村長、三代にわたる夢の里づくりにより創設利用されてきた施設群が盛岡市のアセットマネジメント計画（公共施設保有最適化・長寿命計画）により「都南老人福祉センター」は、複合化計画として移転新築により昨年度から供用開始され、「サイクリングターミナル」などの建物群は廃止、今年度解体されると聞いております。そして、「都南つどいの森」については、森林公園機能を確保しつつ継続活用施設と伺っております。</p> <p>つきましては、都南つどいの森の今後の活性化策と安全安心な施設とするための方策が必要と考えますが、市として今後どのような再整備をし、子どもたちなど本当に無料で誰しものが遊べるつどえる場所にするべきと思いますが、その考えをお聞かせください。</p> <p>また、活性化のためには多くの利用者に活用していただく施策が必要と思いますし、このつどいの森は、自然体験型の教育施設とも思われます。青空学級や野外教育、春・秋の遠足、キャンプ施設利用など、教育委員会としては、どのような活用を考えておられるのでしょうか、また、教育委員会としてこのつどいの森をどのように整備されれば活用が広まると思われておられるのか、その考えをお聞かせいただきたいと思います。</p>	<p>都南つどいの森は、豊かな自然環境の中で森林、林業等を学ぶ教育的施設として、多くの市民に利用いただいております。継続して活用していく必要があると考えております。</p> <p>現在の施設につきましては、引き続き適切な維持管理を行い、老朽化した設備の修繕や更新を実施しながら安全性の確保と快適な利用環境の保持に努めてまいります。</p> <p>活性化策につきましては、子どもたちが楽しく過ごせるよう、遊具の整備や自然の豊かさを活かした自然観察会等の体験型の学習イベントを多数開催することなどを検討しております。</p> <p>今後につきましても、地域の皆様の意見や利用者のニーズを伺いながら、子どもから大人まで誰もが気軽に訪れ、安心して楽しめる“つどいの場”として、さらに魅力ある施設となるよう努めてまいります。</p> <p>都南つどいの森は、子どもの健やかな成長に良い影響を与える自然体験の場と認識しており、小学校におきましては、遠足でつどいの森を利用し、自然散策を行っているほか、子ども会活動の活用を想定し、「盛岡市子ども会ハンドブック」に施設情報を掲載しているところです。また、公民館においては、小学生を対象とした自然体験教室を実施しており、今後も継続して活用してまいります。</p> <p>つどいの森の整備につきましては、まずは、利用者が安</p>	<p>農林部 林政課</p> <p>教育委員会 学校教育課 生涯学習課</p>

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		全・安心して利用するために、施設の適切な維持管理や老朽設備の修繕等を確実に行った上で、四季折々の自然を活かした体験型の学習プログラムやイベントなどの充実により、子どもたちのみならず、幅広い世代への活用の広まりが一層期待できるものと考えております。	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日（火）

No	懇談事項	説 明	担当部課名
2	<p>指定避難所の備蓄資材の現状と避難所運営の課題について</p> <p>近年、国内外において大地震、集中豪雨、洪水、大規模山林火災などの自然災害が発生しており、私たちの生活を脅かす事案を想定し、危機管理対策の必要性が求められています。飯岡地区の指定緊急避難所・避難場所である永井小学校、永井児童センター、飯岡小学校、飯岡中学校、飯岡児童センター、羽場小学校、湯沢児童センターや各活動センター等、各種災害に応じた避難のために必要な間滞在、または自らの居住の場所を確保することが困難な被災者を一時的に滞在させるための施設が指定されています。</p> <p>そこで、飯岡地区の各避難所における備蓄資材の種類・数量などの現状について伺います。</p> <p>また、各避難所の想定避難受入人数や想定滞在日数など、現状の避難所指定箇所が現に避難所になった場合の課題について具体的にお聞きをしたい。</p> <p>さらに、日頃からの非常用持ち出し品の準備、災害時の家族との確認事項、地域での自主防災組織としての活動に関してご教示を頂ければと思います。</p>	<p>①飯岡地区の各避難所における備蓄資材の種類・数量</p> <p>飯岡地区の指定避難所は、永井小学校、永井児童センター、飯岡小学校、飯岡中学校、飯岡児童センター、羽場小学校、湯沢児童センター、都南公民館、飯岡地区公民館、湯沢地域交流活性化センター、永井地域交流活性化センターとなっております。</p> <p>また、全ての指定避難所に「発電機・投光器・防災ラジオ」を備蓄しております。なお、備蓄品を置く場所が確保できる施設については、その他備蓄品も配備しており、現時点では次のとおりとなっております。</p> <p>【備蓄状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永井小学校 アルファ化米50食、毛布 300枚、感染症対策品、パーティション6基、ダンボールベッド10基、トイレパック 600個 ・永井児童センター 感染症対策品 ・飯岡小学校 アルファ化米50食、毛布 100枚、パーティション8基、トイレパック 600個 ・飯岡中学校 アルファ化米50食、毛布 100枚、パーティション8基、 	<p>総務部 危機管理防災課</p>

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>トイレパック 600個</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽場小学校 アルファ化米50食、毛布100枚、パーティション20基、ダンボールベッド20基、トイレパック 600個 ・都南公民館 アルファ化米 100食、毛布 100枚、感染症対策品、パーティション10基、ダンボールベッド10基 ・飯岡地区公民館 大人用紙おむつ 160枚 ・湯沢地域交流活性化センター 感染症対策品 ・永井地域交流活性化センター 感染症対策品 <p>※感染症対策品（マスク、消毒液、手袋、防護服、フェイスガード、非接触体温計等）</p> <p>なお、状況に応じて、周辺の指定避難所や、集中備蓄場所（都南分庁舎・きたぎんボールパーク・旧しえあハート村）などに保管している備蓄品を移送して対応することとしておりますほか、防災協定を締結している民間企業・団体等の御協力をいただき物資供給を行うこととしております。</p> <p>また、今後も、各避難所等施設に、備蓄品を配置するた</p>	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名												
		<p>めのスペースの確保の御協力をいただきながら、各避難所で即時対応できることが可能となるよう分散備蓄を進めてまいります。</p> <p>②飯岡地区の想定避難受入人数や想定滞在日数など、現状の避難所指定箇所が現に避難所になった場合の課題</p> <p>飯岡地区の想定避難受入人数や想定滞在日数は、災害の状況によって異なるため、想定することは難しいところではありますが、令和2年度に実施した「盛岡市防災アセスメント調査」におきましては、飯岡地区近傍に位置する北上低地西縁断層帯が震源の地震（発生時間：冬5時及び夏12時を想定）の場合、飯岡地区における指定避難所への想定避難者数を次のとおり想定しております。</p> <table><tr><td>発生直後</td><td>1 日後</td><td>1 週間後</td><td>2 週間後</td><td>4 週間後</td><td>1 か月後</td></tr><tr><td>603人</td><td>722人</td><td>982人</td><td>992人</td><td>550人</td><td>519人</td></tr></table> <p>（参考） 調査時点の飯岡地区の人口17,613人</p> <p>なお、指定避難所における収容人数は、1人当たり 3.5㎡として算定しており、飯岡地区の指定避難所では、永井小学校 200人、永井児童センター47人、飯岡小学校 227人、飯岡中学校 373人、飯岡児童センター74人、羽場小学校 141人、湯沢児童センター50人、都南公民館 210人、飯岡地区公民館97人、湯沢地域交流活性化センター63人、永</p>	発生直後	1 日後	1 週間後	2 週間後	4 週間後	1 か月後	603人	722人	982人	992人	550人	519人	
発生直後	1 日後	1 週間後	2 週間後	4 週間後	1 か月後										
603人	722人	982人	992人	550人	519人										

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>井地域交流活性化センター 120人、地域内の指定避難所の合計収容人数は 1,602人となっております。(※災害時には居住地域によらず他地域の開設済避難所等に避難していただけます。)</p> <p>また、地震以外の災害についての想定滞在日数につきましても、災害の状況によって異なるため、想定することは難しいところではありますが、一般的な話として、内閣府の令和元年度の調査では、平成29年度以降の災害における避難所滞在日数として「2週間未満が69.5%、1か月未満が15.6%、1か月以上が14.9%」となっております。</p> <p>当市の直近の事例では、令和6年8月27日(火)に発生した大雨災害におきまして、上米内児童・老人福祉センターに設置した避難所を発災から1週間後の9月4日(火)に閉鎖しております。それらの事例等を踏まえた場合、<u>想定滞在日数は数日から2週間程度</u>となることが想定されるものと考えております。</p> <p>指定避難所が現に避難所となった場合の課題としましては、「近隣施設での必要な収容人数の確保」、「備蓄品の不足」、「学校での教育活動との両立など、施設本来の機能との両立」、「配慮が必要な方を収容するための部屋の確保」などが課題となるものと認識しております。</p>	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>③日頃からの非常用持ち出し品の準備、災害時の家族との確認事項、地域での自主防災組織としての活動</p> <p>「非常用持ち出し品の準備」につきましては、先ほど御説明しましたとおり、市でも避難所等に、ある程度の備蓄を行っておりますが、避難所への避難に際しては、食料・飲料・生活必需品や衣類などを御持参いただくことが基本となります。準備していただく持ち出し品については、「広報もりおか令和7年6月1日号」においても御紹介しておりますほか、「首相官邸ホームページ」等でも紹介されておりますので、御参考にしていただき、最低3日分、できれば1週間分を各御家庭等で備蓄していただくようお願いいたします。</p> <p>「災害時の家族との確認事項」につきましては、まずは御自宅周辺等の災害リスクを把握しておき、災害時の連絡手段や近くの避難場所・経路などを、御家族等と共有・確認しておいていただくようお願いいたします。また、災害時に御自分や御家族が「いつ」「何をするのか」といった防災行動を時系列に整理しておくことも重要です。市では災害時の一人一人の防災行動計画となる「マイ・タイムライン」の作成を推進しており、「広報もりおか6月1日号」や「市ホームページ」でもお知らせしております。スマートフォンなどで避難時期が自動通知されるツール等もございますので、是非、御活用をお願いいたします。</p>	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>「地域での自主防災組織としての活動」につきましては、災害時には、防災関係「情報収集・伝達、避難誘導、初期消火活動、救出・救護、長期化した場合の避難所運営」などの活動を行っていただくこととなります。活動の詳細につきましては、「災害時の自主防災マニュアル」としてまとめ、令和6年10月に、より分かりやすいものに更新を行い、市ホームページにも掲載しておりますので御参照いただきますようお願いします。</p> <p>また、マニュアル内容や活動内容の詳細、平時の訓練、活動要領の作成等につきましては、市の消防対策室（電話019-626-7404）にお問合せ、御相談いただきますようお願いします。</p>	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>【参考リンク】</p> <p><首相官邸> https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/sonae.html</p>  <p><広報もりおか 令和7年6月1日号> https://www.city.morioka.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/052/157/250601.pdf</p> 	

令和7年度 飯岡地区まちづくり懇談会 懇談事項

令和7年8月19日(火)

No	懇談事項	説 明	担当部課名
		<p>〈市ホームページ マイタイムラインを作ろう〉 https://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/anzen_anshin/bousai/1051897.html</p>  <p>〈市ホームページ 自主防災組織について(マニュアル等)〉 https://www.city.morioka.iwate.jp/kurashi/anzen_anshin/bousai/1022068.html</p> 	